



【神様に向かう黄金の扉】

説教者: 鄭南哲牧師

聖書箇所: マタイの福音書6章9-13節

(Rev. Jung nam-chul)

1. 私たちの祈り生活の回復を目指して！<神は我らの全てを知っておられる！>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！祈りの大切さは今も生きておられ、我らと共におられる神様と交われる道として、いくら強調しても過言ではない信仰生活の核心的な一つであります。「**神は今日あっても明日は炉(ろ)に投げ込まれる野の草さえ、神はこのように装(よそお)ってくださるのなら、あなたがたには、もっと良くしてくだらないでしょうか。信仰の薄い人たちよ。32あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。(マタイの福音書6章30・32節)**」の御言葉のように、別に我々が祈らなくても全てをご存知なる神様なのになぜ我々が祈る必要があるのでしょうか。神は信じる我々と一方的な関係ではなく、互いに交わりを持って人格的な関係を喜ばれるからです。なので、神はすでにご存知であっても我々が神を信じ、求める事を望み、それに応えて下さる事を喜ばれると聖書は教えて下さっています。その人格的な交わりの体表的な我々の行為が神に祈ることです。「**神である主はこう言われる。「わたしはイスラエルの家の求めに応じ(聞き入れて)、このことを彼らのためにする。わたしは人を羊の群れのように増やす。(エゼキエル書36:37節)**」

<それでは、なぜ祈るべきでしょうか>

① 神と人格的な関係と交わりのため

聖書に“絶えず祈りなさい(1テサロニケ5:16-18)”と神様が私たちに命じられた理由は単に何か困って求めるだけのぐらいではなく、我々が祈りを通じて神様と交わりながら生きるべき存在であるからです。

「**私は主を愛している。主は私の声、私の願いを聞いてくださる。2主が私に耳を傾けてくださるので、私は生きているかぎり主を呼び求める。](詩篇116篇1-2節)**

「**主を呼び求める者すべて、まことをもって主を呼び求める者すべてに主は近くられます。19また主を恐れる者の願いをかなえ、彼らの叫びを聞いて救われます。](詩篇145篇18—19節)**

「**父よ。みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください。しかし、わたしの願いではなく、みこころがなりますように。](ルカの福音書22章42節)**

② 実際神体験をする為(神の御力・神の知恵・神の御助けを頂くため)

マタイの福音書7章7-8節「**求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。8だれでも、求める者は受け、探す者は見出し、たたく者には開かれます。]**

マタイの福音書18章19節「**まことに、もう一度あなたがたに言います。あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心をつにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。]**

③ 様々な戦いや試みに陥らず、守られ、打ち勝って行く為

「**誘惑に陥らないように目をさまして祈っていなさい。心は燃えていても肉体は弱いのです。](マタイ26:41)、**

「**父そこで彼らに言われた。「どうして眠っているのか。誘惑に陥らないように、起きて祈っていなさい。](ルカ22章46節)**

<どうして祈っても応えられないでしょうか>

①自分の快楽や欲張りのため祈った時(ヤコブの手紙4:3) ②自分に罪を持ったままで祈る時(イザヤ書1:15—一手にある血)、③信仰なしで、疑う心を持って祈る時(ヤコブの手紙1:6-7、マルコ11:24) ④人を赦せないまま祈る時(マタイ6:14-15)であるので、このような状態で祈らないように注意しましょう。

2. 神様に向けられる黄金の扉(我らにも祈りを教えて下さい！)

ルカの福音書11章の箇所ではある日弟子たちがイエス様に“私達にも祈りを教えてください。”と願ったら、イエス様が直接祈ることを通して祈りを体で学びながら、体験出来るように“あなたがたは祈るときこのように祈りなさい。”と教えてくださったのがあの有名な“主の祈り”です。

祈りの人だと呼ばれる“EMバウンズ”という人はこのように言いました。“信仰の生活において祈りを代理することもなし、祈り以上のこともなし。我々の人生は今自分が祈っている以上にはならないのだ。”

“人間はひざまずいて神様と顔をあわせるときこそ一番偉大になる。”と言ったイギリスの有名なロイドジョンス先生が強調していた言葉です。私たちが覚えるべきことがあれば、数多くの信仰の人々が偉大な者だったから祈ったわけではなく、祈ったからこそ、大いに神様に用いられ偉大な人生を送られたということですね。

弟子たちの祈りへの飢え渴きと情熱の前でイエスキリストは“あなたたちは祈るときこのように祈りなさい。”と最初であり、最後に祈りを教えて下さいました。これはただ祈りを暗唱しなさいという意味ではなく、正しい祈りの内容、祈りへの正しい姿勢をも教えて下さったことです。言い換えると、この短い主の祈りを通して私たちは真の祈りとは何か、祈りの生活のすべてを学ばされ、体験されるのです。

主が教えてくださった祈りを考えてみると今日には“主の祈り”だとすると、ただ、礼拝の中での呪文みたいに暗唱するもののように扱われていますが、B.C.2世紀時代の教会では信徒たちには一日三回かならず祈る時をもちながら吟味し、特に主の祈りを中心に主の祈りに従って祈るように教えられたそうです。

ここで、みなさん、まず、私たちが一つ考えなくてはならないことが、実際イエス様の弟子たちはみんなユダヤ人だったということです。つまり、ユダヤ人たちは伝統的なユダヤ教の中で育てられるわけですので、祈りもどうやってするのかも知っていたし、一日三回祈る習慣も身につけていた祈り人たちでした。祈りをけっして知らなかった人たちでもなく、むしろ、私たちよりも祈っていた人たちでした。しかし、イエス様が教えて下さった祈りは、ただ形式的な、形だけの祈る姿を望まれず、人格的に心を向き合って交われる親密な交わりを望んでおられます！

<天にいます 私たちの父よ！>

実は、主が弟子たちに教えて下さったこの主の祈りは、とても破壊的な祈りでした！まず、主の祈りのはじめの内容は何でしたか。“**天にします私たちの父よ！**”です。ミラーという神学者はこの文章を‘**神様への黄金の扉**’ (gold gate)だと定義しました。つまり、神様の御前に近づきたがる、神様と交わりを願う人であるならば、この黄金の扉を通過するべきだという意味であります。生きておられる神の御前に出て自分の心を打ち明けて神様と深く交わりたいと願う人ならば、この黄金の扉を開いて神様の御前に出るべきだという意味です。今日この黄金の扉の意味をよくわかってみなさんの前においてある。“天にまします我らの父よ。”という黄金の扉をすっかりあけて、ためらわず、神様との交わりの場に入れますように心からお祈り申し上げます。

①“天”におられる神様

まず、天におられるという意味を調べてみましょう。こここのギリシャ語の原語の聖書を見ると‘天(εν τοις ουρανοις)’という単語は単数ではなく、複数で使われています。ですから正確な表現だとすると‘天たち’になります。けれども、日本語、英語のでも天たち’という表現は使わないためたぶん‘天にまします’だと翻訳されたと思います。すると‘天たちにおられる’という意味はいったい何でしょうか。天がいくつあるという意味ですか。大体二つに考えられます。一つ目、神様はどこにでもおられるという意味です。天におられるという意味は天にだけおられ、この地とは関係がない意味ではありません。天におられるという意味は場所と時間を越えどこでもおられる意味です。この世にのみならず、私達の心にも働かれる神様、どこでも、いつでもおられ、出会える神様を意味します。そして、もう一つのことは、創造主である神様として全能の神の意味を含んでいます。あらゆる物をお造りになられ、そしてすべてのもの主権をもって

おられる神様であることです。この世の目に見える範囲のみならず、あらゆる面において限りない御力と知恵をもっておられる神様であることを意味します。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！イエス・キリストを信じるみなさんは、決して一人ぼっちではありません！いつも、どんな時にもみなさんに父なる神様がともにおられることを忘れないでください。全能の御手を持ってすべてを造り、すべてを収めておられる神様から離れず、後回しにしないする愚かさにつけて、その神様に頼り、すべてを祈りを持って委ね、煩わず、あらゆる問題と悩みを神様に任することが出来る私とみなさんとなりますように主イエスキリストの御名によって祈ります！

ですから、問題に直面した時にはその問題ばかり見て、あせらずに、我らに今もなおともにおられる全能の神様に出る特権が与えられたと信じ、祈りを通して、根本的に解決される神の御業を体験していく日々となりますようにまた祈ります。

②天におられる“父”なる神様(神様と信じる私たちとの関係)

イエス様は祈る時にも、我らの天の父なるお方であられる神様に祈るように明確に教えて下さいました。

「天にいます私たちの父よ。」という祈る内容を通して、我ら祈る対象の神様は、神様と信じる私たちとの関係がどうかをよく教えてくださっています。イエス様は私達の祈りを聞いてくださる神様が私達の“父”だと教えてくださいます。ある新約聖書の神学者は旧約聖書のどこにも、そしておびたしいイスラエルの文献(ぶんけん)をさがしてもイエス様以外に神様を‘父’だと呼んだものは誰一人もいなかったと強調します。皆さん、実際イエス様のように神様を“アバ、父よ”と呼びながら祈った人もいないし、イエス様のように弟子たちに祈る時、神様を“父よ”と呼びながら祈るようにと教えた人もだれもいませんでした。

そういうわけですから、当時イエス様の時、神様を‘父よ’と呼ぶというのは破格(はかく)の中の破格でした。当時イスラエルのユダヤ人たちは神様の名前さえ呼ぶことも恐れていました。旧約の聖書を読みながら、神様という文字が出る時には声を出さずに過ぎたり、恐れ多く名前さえも呼べないほどでした。

しかし、イエス様は、創造主なる神様が私達人間と一番望んでいる関係は親と子どもの関係であることだとイエス様を通して分かります。神様は私たちが神様をお父さんとして認識し、呼ばれることを一番喜ばされます。神様は御子イエスキリストを信じた者たちには神の子とされる特権をお与えられていることを約束されています。ヨハネの福音書1章12節では「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」そういうわけでイエス様は神様を‘父’として呼び求めるように私たちに教えてくださっているのです。

だれでも真心をもって神様を信じ、“アバ、父よ”と呼ぶ者は神様の子どもとされます。神様を信じ、イエスキリストを受け入れるとだれでも神様を父と呼べる特権と祝福を与えてくださいます。ローマ人への手紙8:14-15節を一緒に読んで見たいと思います。「神の御霊に導かれる人はみな、神の子どもです。15あなたがたは、人を再び恐怖に陥(おとし)れる、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。この御霊によって、私たちは「アバ、父」と叫びます。」

この世で良いお父さん、お母さんに出会うのは人生においてどれほど祝福なのでしょう。いや、いろいろと足りないとしても親が生きていて一緒にいてくれるだけでもいかに大きな祝福なのか分かりません。しかし、親も完全でもなく弱い一人の人間であるわけですから、子どもたちを背一杯愛しても肉の親によってかえて傷つけたり、傷ついたりもします。今日はしいて子どもを見捨てたり、子どもを殺したり、親の所有物かのように思い込んで、親のやりたいしたい子どもにさせながら、代理満足を味わったりする間違った親子の関係の場合も増えつつあるでしょう。この世ではだれも完全な父、完璧な親はいないと思います。しかし、創造主であり、天におられる神様は信じる全ての人々の父であられるとイエスキリストは教えて下さいました！

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！イエスを信じるのがどうして祝福なのかご存知ですか。

イエスを信じながら受ける一番大きな祝福であれば、それは、罪人であった我らが創造主なる神様を自分の天の父としての呼べる関係となる祝福なのです！ みなさん、一度深く考えてみてください。

この世を治め、人の生死の人生の全てと歴史、世の全てを支配しておられる神様が私たちをご自分の子どものように扱ってくださり、わたしたちに“アバ、父よ。”と呼べるように許してくださったというのは、これほどの**最高の保障と最高の祝福**があるでしょうか。

肉の親でさえ、自分の子どもに良いものを与えたり、いつも一緒に行きあげたりします。しかし、肉の親って普通は親として、多くの限界があり、限られている力を持っています。そして、子どもより先にこの世に来て、先にこの世を去る時が来るかも知れません。しかし、天の父なる神様は、永遠に信じる神の子どもである我らとずっと一緒にいて下さるし、子どもの人生のすべてを満たして下さると聖書で約束されています。

愛するみなさん、神様は信じ、祈る全ての人の父となってくださいました。神様が私たちとともにいてくださるのは、私達の実力や、品性や、社会的な名誉やお金のような子供になれる何かの条件的に資格があるからでは決してありません。ただ、わたしたちが神様を信じ頼っている子どもだからです。それが子供とされた、私達の特権なのです。神様は私達の父であるお方です。これより尊い恵みと福音はあるでしょうか！私達人間が神様を父として認めず、拒む場合はあっても、神様は決して私達を拒むことはありません。これはとても大切です。私たちが神様を拒まない限り、神様はどんな場合でも私達の父であって、私達はどんな場合でも神様の子どもです。

ですから愛する信仰の家族のみなさん！神様の子どもとされた者たちは、どんな場合にあっても滅びません。神の子どもたちは落胆しても完全にはつぶれません。なぜですか。イエス様が教えてくださったはじめの約束があるからです。‘天にいますわたしたちの父。’がいつも我々と共におられその方がいつもわたしたちの祈りを聞いてくださるお方だからです。

③“私たちの”父なる神様(共同体と宣教の神様)

愛するみなさん、イエス様は主の祈りを通して、“天にいます私の父よ”と教えて下さっていません。そうではなく、“私たちの父”でした。この意味は天におられる神様が、自分だけの父ではなく、等しく他人の父でもあることを表わして下さっています。この‘わたしたちの’の単語の中には神の家族として密につながっている共同体を意味であり、また、伝道と宣教への使命がふくまれています。この短い祈りの箇所を通してここに集っている私たちは同じお父さんをもっていることが明らかにされます。どなたでも“天におられる私達の父よ”と告白する者がいれば、その人は主の教会の中で、牧場の中で、神の信じる我らは、お互いに兄弟姉妹であって、信仰の家族共同体であることを覚えなければなりません。国籍も、人種も、学歴も、仕事も、どんな人かは何も関係もなく、主にあって、等しく愛し合い、祈り合うべき存在であることを教えられています。天の父なる神様がおられ、治められているところはどこでも、みんな同じ神の民であり、子どもであり、家族であります。

神様を知らない方々は決して神様を父だと呼びながら祈れません。ですから、私たちがこの教会から出て行って、神様が我らの父なる神様であられることを教え、伝えなければなりません。“天におられる全能なる神様があなたを愛され、あなたの父となられます。”と！あなたも神様の子どもとされる特権が与えられています。遊女ラハブも、姦淫した女も、殺人者であっても神様の子どもとされました。神様はけっして‘私にあなたのような資格がなく、不良な子どもはいらない！’とは言われません。どんな人でも、父なる神様に立ち返り、父なる神を信じて祈る全ての人々を赦し、いつでも愛されるお方であることを覚えましょう。

マタイの福音書18章19-20節ではこう答えられています。「まことに、もう一度あなたがたに言います。あなたがたのう

ちの二人が、どんなことでも地上で心一つにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。
20二人か三人が、わたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」
この御言葉によれば、一人だけではなく、2人か、3人が心一つにして互いに、一緒にキリストの御名によって祈る時に、必ず天の父なる神様はそこにともにおられ、必ず答えて下さると約束して下さいました。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！ **自分だけの父なる神様ではありません。我らの父なる神様であられます！** ですから、自分だけの祈りから、成熟された神の人たちは、広げて我らのほかの家族、兄弟姉妹の事も自分の事と同じく大切に祈りに覚えます。それをとりなし祈りだとも言われています。ですから、牧場で、子供達のために、お互いのために祈る時間は主の祈り通り、天の扉を開くとても大切な時間であります！その時間を通してみんなが生きておられ、共におられる父なる神様を体験する事が出来るでしょう。

そして、牧場で共に祈り、早天祈り会、水曜祈り会で共に祈る大切さは、自分を越えて他の兄弟姉妹のためにも祈れるので、我らに大切でしょう。願わくは、敬愛する牧者のみなさん！牧場のために、いつも掃除や食事の準備などでいつも仕えて下さっている愛の労苦に心から感謝いたします。是非牧場のために一番大切な準備は、**祈り**であります。一週間牧場の家族のために、常に祈り、牧場がある日には、是非今日の牧場の集まりの中で、聖霊の神さまが我らの分かち合いの中で、祈りの中で働いて下さるように牧場の家族のために徹底的に祈りの備えをすることであります。**役員も、アワナの先生たちも、一番大切な備えは、我らの為にとりなしの祈りをする事です！今週にもさらに自分のためにも、我らの兄弟、姉妹、牧場の家族のために、我らの父なる神様に祈り、実際答えて下さる父なる神の恵みと力を体験出来る全牧場、教会の全家族のみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます。**

<結論>

へブル人への手紙11章6節「信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神がご自分を求める者には報いて下さる方であることを、信じなければならぬのです。」 アーメン！

今日みなさんの中、疲れている方々、様々な問題や悩みに抱えながら、苦しんでいる方々はいらっしゃいますか。今もなおともにおられる父なる神様を呼んで見てください！長く祈らなくても大丈夫です。その時はたくさんの言葉を並ばなくても大丈夫です。ただ、ひれ伏して神様を呼んでみてください。心から**“私たちの天の父なる神様！！”**と。時には、その言葉だけの祈りでも十分でしょう。**神様を父として呼ぶ瞬間祈りの扉、天の扉が開かれます！だれでも父なる神を信じ、主の御名を呼び求める者は救われる。と言われました。**神様を父として呼ぶすべての者は神様の子供とされ、哀れんで下さり、助けて下されるお方である事を忘れないでください。

どんなに大量の作業ができる、素晴らしい機能を持っている機械があっても、エンジンが動かなければ、その機械はただの鉄にすぎないことと同じようにクリスチャンにとっても我々から祈りを除いてしまうと、神様が喜ばれること、神が望んでおられることを守り行い続ける力と神の愛の情熱を失い、最後まで全うすることが出来なくなります。私達クリスチャンにとって祈りというのは、機械のエンジンのように私達の全領域を動かせるエネルギーであり、神のパワーであり、正しく生きる神の知恵なのです。

祈る生活はクリスチャンにとって最高の祝福ですから、みなさんの祈る忙しいから祈れない方々いらっしゃいますか。忙しいからこそ、大変だから、忙しいから、手におえない状況だからこそ、父なる神の助けが必要ではありませんか。教会にいる私達はみんな唯一の父なる神様をもってつながっている一つの神の家族の群れであること覚えましょう。**自分の事ばかりにいつもとどまる祈りではなく、主は我らの兄弟姉妹のためにも祈る事を命じて下さっています。**今日からクリスチャンプレイズチャーチ神の家族我らが私たちの父なる神様の祈りの答えを通して、さらなる神の恵みと御力とともに味わい体験する個人、全家庭、全牧場と教会神の家族共同体となりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン。